





免疫組織化学法により GRK2 が後根神経節の神経細胞に発現することを確認した。免疫組織化学法、ウェスタンブロット法により GRK2 の定量により、その発現は高カテコラミン血症モデルにおいて増加する傾向を示したが、統計学的に有意な変化は認めなかった。これらの研究結果から、持続的な高カテコラミン血症は痛覚過敏を引き起こすことが示された。高カテコラミン血症モデルでは beta2 アドレナリン受容体の一次知覚神経における発現は増加したが、受容体拮抗薬の投与では痛覚過敏は抑制されず、痛覚過敏の分子メカニズムの解明についてはさらなる検討が必要であることがわかった。

